

## みえ福祉第三者評価結果

### ① 第三者評価機関名

評価認証推進機構株式会社

### ② 施設・事業所情報

名称：四日市市立笹川西保育園	種別：保育所
代表者氏名：園長 澤村 由紀子	定員（利用人数）： 100名（71名）
所在地：三重県四日市市笹川9丁目16-3	
TEL：(059)322-1782	ホームページ： <a href="https://www.city.yokkaichi.lg.jp/www/contents/1001000001311/simple/22sasaniishiho.pdf">https://www.city.yokkaichi.lg.jp/www/contents/1001000001311/simple/22sasaniishiho.pdf</a>
【施設・事業所の概要】	
開設年月日 昭和52年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：四日市市	
職員数	常勤職員： 22名 非常勤職員 13名
専門職員	園長 1名 調理員 3名
	主任指導員 1名 事務職 1名
	保育士 20名 通訳 2名
	保育補助 7名
施設・設備 の概要	（居室数） （設備等）
	7室 ホール、事務所、給食室

### ③ 理念・基本方針

保育理念：ひとりひとりの子どもの最善の利益を保護し地域や保護者からも信頼される園を目指す。

- ◎子どもの幸福を求め、子どもの最善の利益を図るよう努めます。
- ◎子どもの権利を理解し、人権を守る保育をします。
- ◎豊かな生活が送れるよう、人、物、場などの環境整備に努めます。

### ③ 施設・事業所の特徴的な取組

～しなやかな心と体を持ち ひとりひとりの違いを認め合う子ども～を目指す子ども像とし、多文化共生を柱とした保育・教育に取り組んでいる。安心できる大人との愛着関係を基盤に自己肯定感を育むとともに、乳幼児期から違いがあることが当たり前という環境の中で、様々な価値観に触れ、多様さを受け入れられる力を育てていくことを大切にしている。また、子どもたちのルーツがある国を肯定的な視点で知る機会を通して、それぞれの国の文化や言葉・肌の色・宗教など、多様である素晴らしさ“違うことの豊かさ”に気づき、共に育ちあう仲間づくりを目指している。生活や遊びを通して豊かな日本語を習得し、人と関わる力を培っていくため【日本語指導年間計画】に基づき実践を重ねている。個々の発達や年齢に応じて子どもの興味・関心を深めていくため、生活体験と合わせた絵カードなどの視覚的教材を活用しながら取り組んでいる。ごっこ遊びやカード・かるた・言葉遊びなど友だちと遊ぶ中で日本語(ことば)に触れる機会をもち、すべての子どもたちの学びの土台となる力を育てている。

職員においても様々な研修に参加し、子どもや保護者の気持ちに寄り添った保育の実践を振り返るため、SPDCAサイクルを活用した研修などを行なっている。保育の資質向上と職員一人ひとりの人権意識を高めるための継続的な取り組みを大切にしている。

様々な機関と連携を図り、特に保幼小中・地域の方々との温かい関わりによって、子どもたちのよりよい育ちにつなげている。

### ⑤ 第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和 2年 9月 9日（契約日） ～ 令和 3年 3月 10日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	0 回（ 年度）

### ⑥ 総評

#### ◇特に評価の高い点

##### ○多文化共生への理解に向けた取組と学びの一体化の取組

笹川西保育園は、多文化共生モデル地区笹川にある保育園の一つとして、地域や校区幼保小中と連携を密にし、「国籍や民族等にかかわらず全ての住民が共に対等な地域社会の一員である」という共通意識の形成に長年取り組んできた。

園では、人権保育推進保育士や通訳を交え、様々な角度から関わりを考慮して支援に繋げている。すべてのお便りやお知らせ、連絡ノートやホワイトボード等はすべてポルトガル語（スペイン語）に翻訳され、各クラスでも誤解のないよう説明を工夫し丁寧な対応を心がけ、保護者全体への共通の周知になるよう働きかけている。

また、日本人の子どもを含め、義務教育を終えた後も「夢と志を持って四日市（日本）で生きていけるような子ども」の育成を目指し、小学校教育を下支えする言語面や学習面での資質や能力の充実を第一課題として熱心に取り組んでいる。特に言語面では個々の理解に合わせて母語を大切にしながら日本語に親しめるような日本語指導計画を策定し、職員に対する言語指導の研修を計画的に実施しながら、幼児期において育みたい資質・能力の育成に向けた「10の姿」の完成を目指した保育を行い、小学校教育へのスムーズな連携に向けて取り組んでいる。

更に乳幼児期からの多文化共生の取組にも関しても、職員は多文化共生視点での人権保育教育の研修計画に従って研修を受けながら、日本の子ども・外国籍の子ども双方がお互いの文化を尊重し差別意識をなくす関わりにも力を入れ、外国籍の保護者から様々な国の行事や遊びなどを教わり発信し園全体で共有することで、保護者同士の関わりを深める工夫をし、子どもたちも保護者同士も、それぞれが違和感なくコミュニケーションが取れていることを保護者アンケートが示している。

##### ○地域との関わり

笹川地区は、多文化共生モデル地区としての歴史があり、地域の多文化共生に向けたボランティアや団体が多く、園の活動にも協力的である。また、地域・自治会、おやじクラブ、老人会等の地域の人々が、行事などで積極的に関わってくれ、サツマイモ畑を提供し栽培や収穫に積極的に関わってくれたり、七夕の笹を持ってきてくれたり、焼き芋大会をしてくれたりと、地域の協力を得て地域との愛着関係を意識した実践がなされている。

#### ◇改善を求められる点

##### ○「全体的な計画」について

- ・「全体的な計画」の全体的・組織的な振り返りと検証結果の計画への反映について

令和2年度の園の「全体的な計画」は平成30年度に策定（見直された）のものであり、令和2年度から施行された第二期子ども・子育て支援事業計画の中で謳われている「子育て・教育安心都市」という将来都市像形成に向けて「夢と志を持った四日市の子どもの育成」を目指す新しい市の計画や構想を反映させた全体計画となっていない。年度末に実施される見直しは、関係する職員全員による組織的で継続的なPDCAサイクルを働かせた見直しシステム構築のもとでの実施が求められる。

- ・「全体的な計画」の記載内容について

理念、方針、目標の捉え方を、職員全体が周知できるよう明確にされたい。また「全体的な計画」で掲げていることと保護者に対しての園だより（保護者説明会時のスライド）の内容で一致してないところがあり、保護者にも分かりづらい。園として、職員及び保護者の共通理解と周知に向けた見直しが必要とされる。

##### ○文書化によるPDCAサイクルを働かせた保育の更なる質の向上に向けて

園長や主任が、リーダーシップを発揮して職員の能力を引き出し、保育への方向性が一つにまとまっている。多文化共生という複雑な保育環境の中でも、全職員が明るく笑顔で前向きに取り組んでいる姿が、園の雰囲気明るくアトホームなものにし保護者に好印象を与えていることが、この度のアンケートの意見から伺えた。

今後、園長や主任、職員が替わっても同じ質の保育が担保され、またその向上に向けて、今やっていることやできていることを文書化し共有を確実にすることで、次なる課題が浮き彫りになり次の計画に確実に反映されるというPDCAサイクルを働かせることが期待される。

#### ⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

保育所保育指針が新たに改定され、平成30年に施行された。それと同時に、社会の変化と児童心理に関する研究の進展といった改正の背景を踏まえ、計画に反映させたものとして『全体的な計画』の作成に至っている。2年が経過し、毎年見直しを行い、園の特色などの理解を深め、掲載の仕方なども変えながら保護者に見える化してきた。今回ご指導いただいた『全体的な計画』や中・長期計画の整理をすると共に、PDCAサイクルについて更に研究・研修を重ねていきたい。また、四日市市の乳幼児教育・保育ビジョン、新教育プログラムも活用し、園の職員の共通理解を進め、保護者にも更にわかりやすく周知していけるよう工夫を重ねたい。今後も園運営や保育内容についても園の実態や課題を明らかにし、研修や自己評価などを通して保育の振り返りを行い、子ども・保護者・地域の期待に一層応えられる質の高い保育を目指して市と協力しながら職員一同努力していきたいと思う。

#### ⑧第三者評価結果

別紙の「第三者評価結果」に記載している事項について公表する。